

lecture of haborogy  
**はぼろ学講座**

あなたはどれだけ  
 はぼろのことを知っていますか？

**第8回**

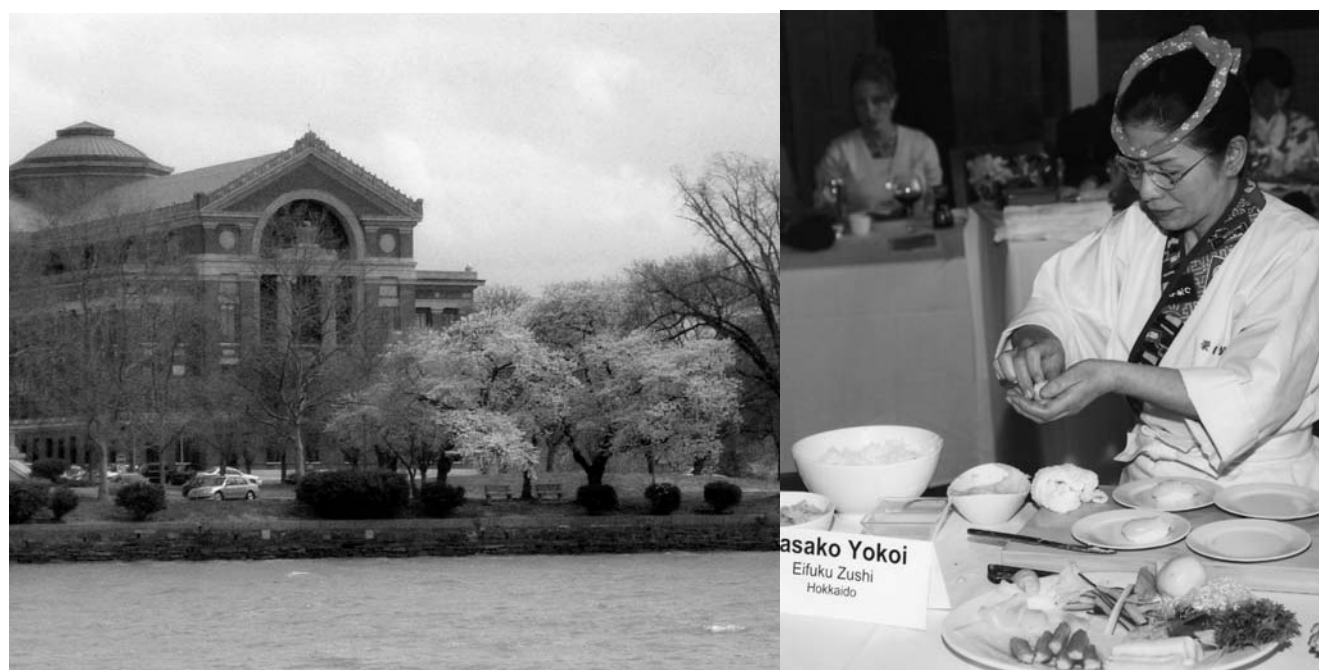
はぼろ学講座は「羽幌の成り立ち、自然・動植物、生活・文化を総合的に学び、羽幌町を訪れるお客様にまちを紹介出来る人材を育成すること」を目指しています

海鳥センターの  
 みどころ知っていますか？

昨年12月7日、北海道海鳥センターを会場に第15回目ははぼろ学講座が開催されました。今回のテーマは「海鳥センターの見所」として役場町民課海鳥センター担当の石郷岡さんが講師を務めました。最初に海鳥センター設置の話の後、館内の展示物について詳しく説明と解説がされました。

10分間で一日を音と光で表現しており、一日の初めは海鳥の鳴き声と羽音からはじまり、嵐の音も入っていますとの説明に、参加者はあらためて聞き耳を立てていました。また「さえずりや」という居酒屋風ののれんをくぐると、今月のお勧め品など自分で好きな鳥の鳴き声を聞けるコーナーがあり、参加者は楽しんで多くの鳥の声を聞いていました。初めて海鳥センターに来たという参加者もあり、天売島に来る海鳥の話に興味深げに聞いていたようです。

- 1 天売島海鳥繁殖地の断崖絶壁を模したジオラマ。その高さは7メートルにもなります。
- 2 メニューは全て新鮮なとれたての鳥声のみという「さえずりや」のコーナー。日本酒のびんも置かれ、まるで居酒屋のようです。
- 3 海鳥ぬいぐるみ。本物と同じ大きさと重さに作られています。こちらのぬいぐるみはウミネコです。抱きかかえると意外にずしりとした重みがあります。
- 4 はぼろ学講座の受講風景。今回もたくさんの方にお集まりいただきました。
- 5 海鳥の卵の展示コーナー。形や大きさは本物と同じに作られています。



(右上) さくらまつりのパンフレットから。横井さんの存在は、現地でもすっかりおなじみとなっているようです。  
 (左上) ワシントンDCのポトマック川のほとりに咲くさくら。  
 (左) 注文はもちろん全て英語で行われますが、単語のやりとりだけでも十分通じるとのことです。



**ガイドとしての心得**



第16回ははぼろ学講座は「人との接し方」アメリカさくら祭の交流」をテーマに栄福館の横井まさ子さんをお迎えしました。

はぼろ学講座は羽幌町の歴史や文化を学びながら、まちを訪れるお客様に羽幌を紹介出来る人材を養成することも目的としており、バスガイドとしての経験もある横井さんには接客やボランティアなどの豊富な体験からガイドとしての心構えを語っていただきました。

横井さんと言えば、アメリカのワシントンDCとフィラデルフィアで開催されている

さくら祭で、にぎり鮓をふるまうボランティアとして平成12年から参加。正統な鮓文化をアメリカで広めていることでもおなじみで、今回の講座ではそのアメリカでの数多くのエピソードをスライドと共に紹介してくれました。

言葉の壁を克服するために最初の2年は英語の勉強もしたそうですが、伝えようという気持ちがあれば単語だけで通じるので今はほとんど何もしていないんだとか。

それよりも相手が何をしたいのか相手の立場になって考えて接することが大事。当たり前なことでも人によって違う。そして何より笑顔とガイドとしての心得を語ってくれました。

はぼろ学講座のお問い合わせは、町民課までご連絡ください。  
 ☎ 0164-62-1211(内線105)  
 ✉ choumin@town.haboro.hokkaido.jp